だぼはぜ通信

ふるさと侍従川に親しむ会 会報

ユリカモメ号

冬の森たんけん

【活動報告１】

１２月１１日（日）９：００～１４：００

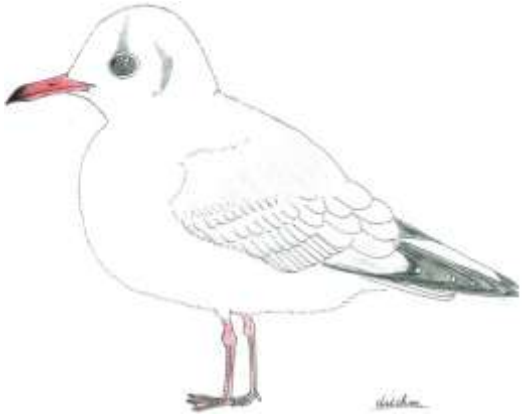
星野愛　2022 年 12 月 11 日は冬の森探検に参加しました。自分たちだけでは気付くこともできずに通りすぎてしまう植物や生き物を教えてくれ、森歩きがこんなにも楽しいのだと感じさせてくれたイベントでした。子供たちが疲れたとも言わずに、最後まで元気に歩けたことにも驚きでした。それだけ楽しめたのだと思います。参加できて良かったです。ありがとうございました！

星野珀（小４）トンビがいて、あのトンビはおなかがすいていないのかなーと、思いました。竹で弓が作れてとても楽しかったです。１月のカゴ作りも行きます。

星野凪（小２）帰りの時に大きい木を見て、その木をのぼったらすごい眺めだろうなぁと思いました。

ユリカモメ（百合鴎）　学名：*Chroicocephalus ridibundus*

　冬に河口、海岸、池等で普通に見られる小型のカモメ。日本へ渡来する小型カモメのほぼ全てが本種。冬羽は白い体に薄い灰色の翼、嘴と足は赤色で、４月頃に生え変わる夏羽では、頭部が真っ黒になる。若い個体は嘴と足の色が淡く、１年目の冬羽では橙色、２年目の冬羽では橙色味が強い赤色になる。１年目の冬羽には、尾羽根の縁に黒い帯がある。



小魚や甲殻類を主食とし、水中の魚の群れに頭から飛び込んで捕まえる。群れで漁船に付いて飛び、漁のおこぼれを狙う事もよくある。「ギャー、ギャー」と大きな声で鳴く。

侍従川流域では、毎年 11 月頃から 3 月頃にかけて、野島公園周辺と平潟湾に数十個体が渡来する。餌を求めて下流域へ入ることもあり、汐見橋周辺で度々観察される。

日本には極東ロシアで繁殖する亜種*sibiricus*が冬鳥として渡来する。西ヨーロッパから中央アジアで繁殖する、亜種*ridibundus*も、稀に観察される。こちらは小柄な体型や短い嘴、頭部の換羽が早い事等で識別できる。　　深沢大地

冬の野鳥観察会 in 野島公園　【活動報告 2】

１２月２４日（土）１０：００～１５：００

★冬の野鳥観察会に参加して★　三浦真弓

初心者レベルの私に合わせて名前は良く聞くけれど姿を見た事がない鳥や身近な鳥について丁寧にご指導頂きました。

カモメという名のカモメはなかなか現れないそうですが、この日現れてクリスマスプレゼントのような出来事でしたね。

自然浜で観察の折り、ビーチコーミングを趣味とする私に合わせて鳥の羽根拾いを一緒にしてくださり、その場で同定して頂いたのも嬉しかったです。

展望台に向かう坂道ではアオジが近くの斜面にひょっこり現れ、お昼休憩でトビやスズメが間近にやって来て可愛かったですね。

この日出会えたのは、ホオジロガモ、アカエリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カモメなど全部で 34 種でした。

有意義な時間をありがとうございました。

ホオジロガモメス

★冬の野鳥観察会を企画して★　深沢大地

この日は鳥の観察に加えて海岸に漂着した羽根も観察しました。

運良くヒドリガモの三列風切(翼の付け根付近の特徴的な羽根)が拾え、目の前に浮かぶヒドリガモと見比べられたのが良かったです。

他にもカモメの仲間の風切羽や、ドバトの尾羽、カラスの仲間の風切羽等、色々な鳥の羽が落ちていました。

足元を見てみる野鳥観察も面白いですね！

ヒドリガモの羽根

１２月定例クリーンアップ

【活動報告３】

１２月２５日（日）１０：０５～１１：２０　晴れ　　飯村優介

実施内容：六浦２号橋～加倉橋（土嚢袋６袋）
参加者：小野田勇介、山田陽治、寺尾勝廣、河本充雄、五月女陽斗(中２)、飯村優介（計６名）
気づいた点：ゴミが多く、人数に比して大作業となった。長島橋の下に犬のフンが捨てられていた。

夜の干潟観察会 in 野島海岸

【活動報告４】

１月２１日（土）１９：００～２２：００　　深沢大地

風が強く水面は波立ち、あまり良いコンディションではなかったですが、沢山の生き物が見られました。

アマモ場は今回の潮位で入れる場所にはほとんど無く、アマモ場特有の生き物達の姿はありませんでした。野島のアマモ場にはヨウジウオ、ヒメイカ、アミメハギ、ツノモエビ、ウミナメクジ等の生き物が暮らしています。コアマモは数箇所に群生していましたが、これを利用する生き物は少ないようです。

参加者の皆様、寒い中お疲れ様でした！

【参加者】４名

【見られた生き物】魚類：ボラ、シロメバル、アゴハゼ、シモフリシマハゼ、ヒメハゼ、ミミズハゼ属の一種、クサフグ
甲殻類：ユビナガホンヤドカリ、ホンヤドカリ、オヨギピンノ（※次ページに解説あり）、ヨツハモガニ、タカノケフサイソガニ、イソガニ、ヒライソガニ、ウリタエビジャコ、モエビモドキ
貝類：アサリ、ツメタガイ、ムシロガイ科の一種、イボキサゴ(死殻)
棘皮動物：モミジガイ
刺胞動物：カブトクラゲ、ウリクラゲ、ウミサボテン、タテジマイソギンチャク

ウミサボテン

ユビナガホンヤドカリ

夜の干潟観察会で見つかった「オヨギピンノ」

夜の干潟では、昼とは違った生き物が観察できて大変興味深い。

中でも今回特に面白かった生き物は「オヨギピンノ」というカニの仲間だ。参加者の五月女陽斗くんが表層を泳いでいるカニを採集。形はオサガニ(野島でもたまに見られる)に似ているが、足には長い毛が生えていて、ヒレのように見える。調べてみると、やはりオサガニ科に属するカニで、時に大きな群れを作って泳ぐらしい。"オヨギ"はこの生態から付けられた物だとすぐに分かるが、"ピンノ"はどこから来たのか？ 馴染みのある"ピンノ"と言えば、アサリ汁に時折入っている小さなカニ「オオシロピンノ」だが、形態は全く似ていない。以前は所謂ピンノの仲間と同じ「カクレガニ科」に分類されていた事からピンノとつけられたようだ。寄生生活をすることは間違っていないようで、"チンチロフサゴカイ"というゴカイの仲間の棲管から多数採集された報告がある。

近年水族館で展示される事もあるようで、泳ぐ様子がインベーダーゲームのようだと人気の様子。インターネットで検索すると、野島から千葉の富津にかけての大群の記録や、鯖ガニ、ミクロガニ、コウダカヨコナガ等様々な別名が出てきて、興味の尽きない生き物だ。

学生部

１月定例クリーンアップ

【活動報告５】

１月２２日（日）１０：００～１１：３０　晴れ　　飯村優介

実施内容：六浦２号橋～大道橋（土嚢袋３袋）

参加者：廣瀬隆夫、寺尾勝廣、沖田正孝、小池碧馬、伊丹明子、伊丹咲和(小５)、貞廣宇保、飯村優介(計８名)

気づいた点：レシートなどのゴミが多かった。山王橋でシマヨシノボリの卵塊と親１。

ネイチャークラフト教室

【活動報告６】

１月２９日（日）９：００～１５：３０

★つるかご作りに参加して★　山口百合

小学校６年の息子とつるかご作りに参加しました。

前半の山で材料となる「つる」を取る所から子供達は走り回ってつる探しに夢中でした。

後半のカゴ作りは、始めは苦戦しましたが、手伝ってもらいながら徐々に形になっていくのが楽しくなっていき、無事完成させる事が出来ました。

初参加でしたがとても楽しい１日でした。ありがとうございました。

★つるかご作りを企画して★　寺尾勝廣

強烈に寒い日や風の強い日が続き、屋外でのつるかご作りが実施できるか不安な日々を過ごしていましたが１月 29 日当日朝は晴れ！ 風もなし！ 最高のコンディションでほっとしました。

縦芯用に前日に用意したグミの新枝を担いで出発しました。採取したときは直角に曲げても何事もなかったのに・・・。作り出したら硬い。折れそう・・・折れました！！！　参加した皆様ごめんなさい。保管期間含め試作しないといけなかったです。

同様のミスを繰り返さないように他のイベントも企画していきますので、興味のある企画を見つけましたら気軽にご参加ください。お待ちしています。

２月定例クリーンアップ

【活動報告７】

２月２６日（日）１０：００～１１：３０　晴れ　　飯村優介

実施内容：六浦２号橋～加倉橋（土嚢袋４袋）

参加者：沖田正孝、寺尾勝廣、飯村優介(計３名)

気づいた点：ハゼの卵塊が多数確認された（詳しくは９ページのクリーンアップ調査で）。

侍従会創立３０周年記念特別企画　昭和３年当時の大道の風景　元顧問　廣瀬一雄

朝夷奈の森通信　～森の忍者より～　飯村優介

一月下旬の強烈寒波は侍従川流域も数年に一度レベルの冷え込みとなりました。朝比奈峠の金沢区側に侍従川の最初の一滴がしたたる岩壁があります。今回の寒波の中見事な氷柱の連なりが出来ました。これが見られたら鎌倉側に下るのも楽しみになります。

三郎滝まで氷の殿堂がそこかしこにできていました。

侍従川源流域の氷柱

滑川水系（鎌倉側）

トピックス

１／１８（水）大道小学校３年生が冬の侍従川の生きもの観察のためのボサとペットボトルわな作り…山田が対応

１／１９（木）大道小学校３年生が冬の侍従川の生きもの観察のためのボサとペットボトルのわな設置…山田が対応

１／２５（水）大道小学校３年生が冬の侍従川の生きもの観察（ボサ&ペットボトルわな回収）…山田が対応

２／　２（木）金沢シーサイドFMに山田出演…侍従川の話もしました

２／１９（日）学生部水鳥調査　荒天のため中止

生き物発見記録

９／２５（日）カワアナゴを釣り上げる 大道東橋（塩島）

１／１７（火）リュウキュウサンショウクイ（鳴き声のみ）蛍谷戸付近（深沢）

１／２１（土）ミサゴ 大道中学校上空（深沢）

１／２９（日）ヤマアカガエル 朝比奈北市民の森（寺尾）

２／２６（日）ホオジロハクセキレイ　山王橋付近

亜種ホオジロハクセキレイ(*Motacilla alba leucopsis*)は主に中国、台湾、朝鮮半島等に生息し、日本では九州地方を中心に少数が繁殖する。侍従川流域でも普通に見られる亜種ハクセキレイ(*Motacilla alba lugens*)とは黒い過眼線が無いことで見分けられる。(深沢)

北の国から　～雪の妖精と呼ばれる、北海道で人気の小鳥～　　瀧本宏昭

ここ数年、ネイチャーセンターで仕事をしていて、冬になると来館者から「どこで見られますか？」とよく聞かれる野鳥がいます。その野鳥は、くちばしから尾羽の先までの長さが 14 ㎝。その内、尾羽の長さが 7 ㎝という、身体に対して尾羽が長いのが特徴です。この特徴を持つことから、尾羽を持つ手の柄（え）に例えて「エナガ」と呼ばれています。エナガという種（しゅ）は日本全国で見られますが、地域によって身体の模様などが異なるため、地域ごとにさらに亜種（あしゅ）として分けられています。

北海道で見られるのは亜種シマエナガと呼ばれ、本州のエナガが目の所に黒い線が入るのと異なり、頭が目と嘴以外が真っ白です。このシマエナガの正面顔のかわいさが人気の様で、関連商品が続々と出されています。今では、北海道の観光地に行けばたいていグッズが売られています。人気のきっかけは数年前に出た写真集のようで、人気も数年続いていますが、未だに衰えない様子です。全身シマエナガグッズを身に着けている人を見かけたこと時にはさすがに驚きました。

ウトナイ湖の野生鳥獣保護センターではインスタと Meta（facebook）をやっているのですが、シマエナガの写真を入れると、明らかに“いいね”の数が増えるので非常に分かりやすいです。この流れで、別の野鳥や自然の魅力に気づいてくれる人が増やせればと思っています。

シマエナガは、高い標高の場所を除けば、北海道全域の森林で見られます。北海道にお越しの時にはぜひ探してみてください。鳴き声を覚えて、朝早めに探せば簡単に見つけられます。

なかなか可愛く撮れない

背面は黒色の割合が多い

侍従川定例調査報告　学生部

２０２２年１２月２５日（日）　１０：００～１１：５０**〔クリーンアップ調査〕**

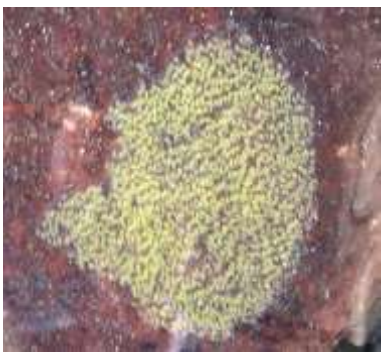
【調査内容】ハゼの卵塊数
【調査範囲】六浦２号橋～大道橋
【参加者】山田、飯村
【確認した卵塊】大道東橋下流側：スミウキゴリ５

２０２３年1月２２日（日）　１０：００～１１：５０
〔クリーンアップ調査〕
【調査範囲】六浦２号橋～大道橋　【採集&記録】貞廣宇保
【確認した生物】魚類：ボラ、メダカの仲間、マハゼ、ウロハゼ、シマヨシノボリ、ウキゴリ、スミウキゴリ、チチブ
甲殻類：ミゾレヌマエビ、モクズガニ
昆虫：コシボソヤンマ(幼虫)、ハグロトンボ(幼虫)、ガガンボの仲間(幼虫)
その他：ハリガネムシ、イシマキガイ、カワニナ、アサリ(死殻)

１３：００～１６：００**〔下流域調査〕**
【区間】雪見橋~平潟橋　【参加者】金子、深沢【記録】深沢
【方法】餌にアオイソメを用いたミャク釣り、簡易的なトラップ採集
【採集した生物】（括弧内は個体数）マハゼ12cm(4)、アカオビシマハゼ3cm(2)、ユビナガスジエビ(19)、アラムシロ(455)、キヌボラ(8)、コウダカマツムシ(1)、
【目視した生物】トビ(5)、ムクドリ(31)、イソヒヨドリ(1)、ハクセキレイ(2)、カワウ(13)

アカオビシマハゼ

２０２３年2月２６日（日）　１０：００～１１：３０
〔クリーンアップ調査〕
【調査内容】ハゼの卵塊数　【調査範囲】東橋下～二ノ橋
【採集＆記録】飯村優介
【確認した卵塊】東橋下：ウキゴリ４、山王橋～二ノ橋：シマヨシノボリ２、ウキゴリ２



１２：３０～１４：００〔**上流域調査**〕

【参加者】飯村、深沢(記録：深沢)　【範囲】第二山王橋～本流源流

【記録した生き物】

①第二山王橋～大道橋：チチブ(14)、シマヨシノボリ(1)、ミゾレヌマエビ(8)、コオニヤンマ(幼虫)(1)、カワニナ(19)、コモチカワツボ(100+)、ウズムシの仲間(100+)、ミシシッピアカミミガメ(1)目視、ハクセキレイ(1)目視

上アラムシロ
左下キヌボラ
右下コウダカマツムシ

②大道橋～金之橋：スミウキゴリ(13)、ミゾレヌマエビ(1)、ガガンボの仲間(幼虫)(2)、ダビドサナエ(幼虫)(2)、ユスリカの仲間(幼虫)(1)、カワニナ(4)、コモチカワツボ(100+)、ハクセキレイ(1)目視、キセキレイ(1)目視、メジロ(4)目視、シジュウカラ(2)目視

③金之橋～本流源流：スミウキゴリ(3)、テナガエビ(1)、ヒラテテナガエビ(1)、ヌマエビ(2)、ミルンヤンマ(幼虫)(1)、ユスリカの仲間(幼虫)(1)、モンキマメゲンゴロウ(成虫)(1)、カルガモ(2)目視

大道渓谷ホトケドジョウ調査

【日時】２０２３年１２月２１日　１３：００～１４：３０

【採集】深沢、金子　【記録】深沢

【地点】大道中学校校庭西側の水路

【方法】網目３mmのタモ網を用いたガサガサ

・１時間水路に満遍なく網を入れて採集し、その後計測撮影した

【記録】

ホトケドジョウ(89)(抱卵個体 17)

最小 24mm 最大 72mm

平均的な個体 45~55mm

【他の生き物】

クロスジギンヤンマ幼虫(1)、シオカラトンボ幼虫(5)、ショウジョウトンボ幼虫(10)、センブリの仲間幼虫(5)、キベリヒラタガムシ成虫(1)、ケラ成虫(1)、ガガンボの仲間幼虫(4)、サワガニ(1)、ミズムシの仲間(多数)、カワニナ(2)、ヒメモノアラガイ(2)、サカマキガイ(1)、キセルガイの仲間死殻(1)

朝比奈北市民の森散策

２０２３年1月２１日（土）９：１０～９：５０

【見聞きした生き物】コゲラ 1(c)、リュウキュウサンショウクイ 1(c)、ハシボソガラス 2(v)、シジュウカラ 1(c)、ヒヨドリ 6+(c)、ウグイス 1(c)、エナガ 1(c)、メジロ 12(v)、シロハラ 1(c)、ジョウビタキ 2(c)、カワラヒワ 1(c)、ホオジロ 3(v)、アオジ 3+(c)

※(c)=鳴き声 (v)=目撃

近年侍従川流域でも冬に見かけるようになったリュウキュウサンショウクイの鳴き声を聞きました。鳴き声からは単独で飛んでいたように思います。

深沢大地

大道渓谷保全作業

【実施日時】２０２３年1月２１日（土）１０：００～１６：００

【参加者】飯村、今井、深沢、金子(計４名)

【作業内容】ホタルの生息域保全のために次の作業を実施した。

①流水量の確保を目的とした水路の土砂除去作業、クレソン・アオミドロ除去

②日照条件、飛翔空間改善を目的とした低木・下草の伐採

③その他、水路の拡張（西側の陸地化した水路の復活）、浮草の除去など

☆まとめとお願い☆

去年のホタル調査では 451 頭という過去調査でも類を見ない数のホタルを観察することができた。実は 2019 年のホタル調査報告の際、過去の整備作業実施の有無とホタル頭数の関係を考察している。今回、22 年までのデータを追加して改めて関係を見る。

前年に整備作業を再開した 17 年から 22 年まで堅調に頭数が増えているのが分かる。19 年時の考察ではデータ不足としていたが、現在のデータを見ると整備作業はホタルの頭数維持に一定の効果があると推察できる。一方でホタルの数と反比例するかのように整備作業への参加人数が減っているのが現状である。会員の皆様には今年も是非ともホタルを観にきていただきたいが、その際、出来たらこの記事のことを思い出していただければと切に願う。そして、来年度の整備作業への参加を検討して欲しい。

金子英司

学生部水鳥調査報告総括２０１６－２０２３

<調査日程>　２０１６年１２月～２０２３年２月

2016 年～2017 年　12/13、1/1、1/29(計３回)

2017 年～2018 年　11/11、12/2、12/23、1/13、2/3、3/17(計６回)

2018 年～2019 年　11/4、11/18、12/2、12/25、1/7、1/20、2/3、2/17、3/8、3/31(計 10 回)

2019 年～2020 年　12/21、1/25、2/22、3/21(計４回)

2020 年～2021 年　11/15、12/19、1/16、2/20(計４回)

2021 年～2022 年　11/7、11/15、11/20、11/26、11/26、11/30、12/5、12/12、12/18、12/24、12/29、1/4、1/7、1/12、1/15、1/18、1/21、1/26、1/29、2/2、2/5、2/8、2/11、2/21、2/24、2/27(計 26 回)

2022 年～2023 年　10/9、10/11、10/20、10/28、10/31、11/3、11/9、11/16、11/24、11/30、12/8、12/14、12/18、12/24、1/2、1/8、1/15、1/20、1/26、2/2、2/5、2/14、2/20(計 23 回)

<調査対象>　水鳥全般(カモ目、カイツブリ目、カツオドリ目、ペリカン目、ツル目、チドリ目)と、一部水辺依存の強い種(ミサゴ、カワセミ等)

<調査範囲>　野島海岸、野島水路、平潟湾、侍従川本流(平潟橋～第二山王橋)

<調査方法>　調査範囲を徒歩で移動し、種類と個体数を記録した。年齢や性別等で個体識別が可能な場合は備考として記録した。観察には 8~10 倍の双眼鏡、距離がある個体の識別には 20~60 倍の望遠鏡を使用した。必要に応じて、コンパクトデジタルカメラや一眼レフカメラで撮影した。

<参加者>　大野颯太、小野間柊太、柏倉陽向、金子英司、小宮彩、小宮一葉、五月女陽斗、貞廣宇保、柴田幸成、柴田真菜、柴田繭子、髙橋一太、津島智子、藤間康司、藤間遥香、平川美央、深沢大地、山田陽治、吉村みち子　計１９名(五十音順)

<2022-2023 の結果>

種数	分類(種)	10/9	10/11	10/20	10/28	10/31	11/3	11/9	11/16	11/24	11/30	12/8	12/14	12/18	12/24	1/2	1/8	1/15	1/20	1/26
1	ヒドリガモ	2	2	5	23	27	34	17	62	30	8	1	9	40	10	37	23	33	35	24
2	カルガモ																			
3	ハシビロガモ								1			1						1		
4	オナガガモ				2			1		1		2		25		5	4	20	7	26
5	ホシハジロ				3	2			1	1	1	22	17	10	3	4	2	1	7	
6	キンクロハジロ					3			15	10	17	13	1		1					
7	スズガモ			2	13	16	2	3	81	138	205	296	226	226	301	304	285	214	203	161
8	シノリガモ																			
9	ホオジロガモ														1					
10	ウミアイサ											1	1	1	1			1	1	
11	カイツブリ										2				1			1		
12	アカエリカイツブリ														1	1	1	2	3	
13	カンムリカイツブリ						1	4	7	8	19	21	28	6	42	38	59	8	7	4
14	ハジロカイツブリ							4	1		1	2	2		3		1	3	1	2
15	カワウ	10	5	6	7	13	5	9	12	8	16	16	28	7	6	11	5	6	4	13
16	ウミウ										2	2	1	2	5	2	4	2	7	2
17	アオサギ			1	1	1	1			3		2		2		2	2	1		2
18	チュウダイサギ			1													1			
19	コサギ				1		1												1	
20	オオバン				16		71	68	96	131	108	86	53	60	70	76	74	177	131	107
21	イソシギ	2	1		1	2	1	1	1	1	2	1	1	2		1			1	
22	ユリカモメ				5			5	37	11	21	56	23	12	14	11	39	56	49	
23	ウミネコ			1	17			1		1	1		2				1	3		
24	カモメ														1					
25	セグロカモメ				1								3	2	1	1		3		
26	※タイミルセグロカモメ												1			1				
27	オオセグロカモメ			1										1	1		1	1		
28	ミサゴ			1	2		1		4	1	1				1				1	
29	イソヒヨドリ													2						
30	ハクセキレイ				2	2		3	4	2	2		3	5	3	2	3	3	3	2

・数は１日の合計数、赤文字は今季の最多数。

・終認記録は取れなかったが、冬鳥の初認と増加の様子が分かる。

・今回新たに記録された種はハシビロガモ、シノリガモ、カモメの３種であった

・ハシビロガモは野島海岸で３回記録され、メスとオス(エクリプス)の最低２羽であった。本種は主に池や沼に生息するカモで、海水域では稀である。いずれの個体も連続して確認される事は無かった為、一時的に滞在しただけと考えられる。野島海岸周辺では長浜公園(金沢区)に毎年渡来する。

・シノリガモは野島海岸で２回記録され、２回ともオス１羽メス１羽であった。常に一緒に行動していたため、ペアであると考えられる。観察した羽衣から、オスは第一回冬羽であり、メスも第一回冬羽の可能性が高い。本種は北日本を中心とした九州以北の海岸に冬鳥として渡来し、北海道と東北地方では少数が繁殖する。三浦半島では毎冬数羽が越冬する。

・カモメは 2022.12.24 に野島海岸で成鳥１羽が確認された。本種は冬鳥として日本に渡来するが、神奈川県では稀であり、当会の調査では初記録となる。侍従川流域では、2000 年代後半に野島公園周辺に毎年１羽が渡来していたが、その個体が何らかの理由で途絶えてからは 10 年以上見られなかった。

<7 年間のまとめ>

種数	和名	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	最小値	最大値	平均値
1	ヨシガモ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1
2	ヒドリガモ	49	46	72	37	45	42	62	37	72	50.4
3	マガモ	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.1
4	カルガモ	7	12	24	7	14	7	15	7	24	12.3
5	ハシビロガモ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1
6	オナガガモ	6	35	23	1	1	15	26	1	35	15.3
7	ホシハジロ	11	20	7	13	6	25	22	6	25	14.9
8	キンクロハジロ	1	3	38	3	10	6	17	1	38	11.1
9	スズガモ	479	1016	669	552	435	402	304	304	1016	551
10	シノリガモ	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0.3
11	ビロードキンクロ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.1
12	クロガモ	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0.4
13	ホオジロガモ	0	0	0	0	0	3	1	0	3	0.6
14	ウミアイサ	9	1	0	0	1	1	2	0	9	2
15	カイツブリ	0	0	0	1	1	2	2	0	2	0.7
16	アカエリカイツブリ	0	0	0	0	0	1	3	0	3	0.6
17	カンムリカイツブリ	9	3	1	4	19	32	59	1	59	18.1
18	ハジロカイツブリ	2	2	2	1	2	3	4	1	4	2.3
19	ヒメウ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
20	カワウ	16	4	34	12	19	19	28	4	34	18.9
21	ウミウ	0	1	0	0	0	4	7	0	7	1.7
22	ゴイサギ	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0.4
23	アオサギ	3	6	5	1	1	3	3	1	6	3.1
24	ダイサギ	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.3
25	コサギ	2	5	2	2	8	1	1	1	8	3
26	オオバン	221	301	334	102	110	181	177	110	334	204
27	セイタカシギ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1
28	イソシギ	1	3	8	3	2	2	2	1	8	3
29	ユリカモメ	68	16	8	51	145	83	80	8	145	64.4
30	ウミネコ	1	2	1	3	0	5	17	0	17	4.1
31	カモメ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1
32	セグロカモメ	6	2	4	3	8	5	3	2	8	4.4
33	亜タイミルセグロカモメ	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0.3
34	オオセグロカモメ	0	0	0	0	1	2	2	0	2	0.7
35	ミサゴ	0	1	2	0	0	2	4	0	4	1.3
36	カワセミ	1	3	0	1	2	0	0	0	3	1
37	イソヒヨドリ	1	2	2	1	3	1	2	1	3	1.7
38	キセキレイ	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0.4
39	ハクセキレイ	3	10	5	8	6	7	8	3	10	6.7

・調査年(2016＝2016-2017、2017＝2017-2018)とその年の最大個体数を記載した。

・記録された各種について

・**ヨシガモ**　2018-2019 にオス 1 羽が記録された。

・**ヒドリガモ**　最小 37 羽(2019-2020)、最大 72 羽(2018-2019)、平均 50 羽と、毎年安定した数が越冬していた。アメリカヒドリとの交雑個体も稀に観察された。

・**マガモ**　2021-2022 に上流域にてメス 1 羽が記録された。　本種は 2000 年代中頃までは少数が中流域に渡来していた。
・**カルガモ**　中流域～上流域では毎年 1～2 ペアが繁殖しており、冬季は他の場所からも飛来する。海水域でも稀に記録された。
・**ハシビロガモ**　2022-2023 にオス 1 羽(2 回)、メス 1 羽(1 回)が記録された。詳細は＜2022-2023 の結果＞を参照。
・**オナガガモ**　年によってバラつきがあったが、全ての年で記録された。
・**ホシハジロ**　全ての年で安定して記録されたが、日毎の変動が多く,近隣の河川や海岸と行き来している可能性がある。河口域と海水域で記録されたが、汐見橋付近に陸地があった 2010 年頃までは、下流域でも観察されていた。
・**キンクロハジロ**　群れで入ることもあるが、滞在期間は短く、移動の中継地点である可能性が高い。1 羽～数羽でスズガモの群中にいることもあるので注意が必要。
・**スズガモ**　2017-2018 の 1016 羽以降 20%前後ずつ減少している。本種はアサリ等の二枚貝を好んで食べる為、潮干狩り客の増加に伴う貝類の減少が渡来数減少の要因の一つと考えている。当地では 2018 年頃から潮干狩り客がかなり増加しているように感じており、本種の減少とタイミングが一致する。近年本種は日本全体で見た渡来数の減少も示唆されており、要因は他にもあると考えられる。侍従川流域では野島海岸が本拠地だが、平潟湾内(夕照橋付近)にも 20～30 羽程が越冬する。
・**シノリガモ**　2022-2023 にオスメス 1 羽ずつが記録された。詳細は＜2022-2023 の結果＞を参照。
・**ビロードキンクロ**　2019-2020 にメス 1 羽が記録された。東京湾では毎年スズガモの群れに混ざって少数が越冬する。
・**クロガモ**　2019-2020 にオス 2 羽、メス 1 羽が記録された。この年は本種の当たり年であり、神奈川県では各地で群れが観察されていた。千葉県の九十九里浜では毎年大きな群れが越冬するが、東京湾では稀。
・**ホオジロガモ**　2021-2022 と 2022-2023 で記録された。近年増加傾向にあるようだが、県内ではやや稀。
・**ウミアイサ**　年によってバラつきがあった。野島海岸周辺には魚の群れを追って稀に入ってくるようで、長期の滞在はしなかった。
・**カイツブリ**　2019 年の初記録から、冬季に少数が見られるようになった。主に平潟湾で記録されている。
・**アカエリカイツブリ**　2021-2022 と 2022-2023 で記録された。三浦半島ではカンムリカイツブリと共に 2019 年頃から少しずつ増加しており、今後観察する機会が増えると思われる。
・**カンムリカイツブリ**　2010 年頃までは極稀な冬鳥であったが、2014 年頃から侍従川流域でも見られるようになった。調査を開始した 2016-2017 では 9 羽が記録された

が、この頃は三浦半島の他の海岸でも安定して見られる訳では無かった。本格的に増加が見られ始めたのは 2019-2020 頃で、2022-2023 にかけて 4 季連続の増加を示している。相模湾側の葉山町や横須賀市でも同時期に増加しており、今後も注意が必要。普段はほとんどが野島海岸にいるが、数の増加と共に河川に入る事もあり、平潟橋～雪見橋間や、汐見橋付近でも観察例がある。

・**ハジロカイツブリ**　全ての年で安定して記録された。2021-2022 と 2022-2023 では増加傾向にあった。

・**ヒメウ**　2016-2017 に 1 羽が記録された。堀ノ内から走水辺りの海岸では普通に見られる為、そこから飛来したと考えられる。近隣の長浜公園やふなだまり公園でも稀に観察される。

・**カワウ**　年によって多少変動はあるものの、野島海岸から河川下流域にかけて通年生息する。調査範囲内では繁殖は確認されていない。近年個体数の増加が示唆されているが、本調査期間内では目立った増加は見られなかった。

・**ウミウ**　冬鳥として少数が渡来する。三浦半島では南部に多く、野島海岸周辺ではやや稀。2022-2023 では比較的よく見られたが、餌の魚を求めて移動する習性が強く、正確な個体数を把握するのは難しい。カワウは平潟湾や河川中流域等でも記録されたが、本種は野島海岸周辺のみで記録された。

・**ゴイサギ**　2000 年代までは中流域で普通に見られたが、2010 年頃からほとんど見られなくなった。本調査では 2017-2018、2018-2019、2019-2020 と 3 年連続で記録され、復活したかと思われたが、その後また見られなくなった。2021-2022 と 2022-2023 では調査日以外にも何度か探したが、見られなかった。

・**アオサギ**　侍従川流域では普通に見られる留鳥で、本調査でも全ての年で記録された。干潟や川の中だけでなく、建造物の上でもよく見られた。

・**ダイサギ**　2021-2022、2022-2023 で、亜種チュウダイサギが 1 羽記録された。記録されていたのは全て同じ個体の可能性が高く、春と秋のシギ・チドリ類調査でも確認されていた為、通年同じ場所にいたと思われる。侍従川流域では 2005 年前後、冬季に平潟湾奥(枇杷島付近)に亜種ダイサギが 1 羽渡来していた。

・**コサギ**　中流域に多いが、海水域でも稀に記録された。本調査前から比較しても、特に増減は見られない。通年見られるが、冬季はやや個体数が増える。

・**オオバン**　侍従川流域では 2012 年頃に夕照橋付近で十数羽が初認され、それから急激に数を増やした。増加が見られたのは 2018-2019 までで、その後は数が落ち着いた。最初の頃は海水域が主体だったが、個体数が増えるとともに下流域や中流域でも見られるようになった。本調査外では、平潟湾と各流入河川(侍従川、宮川、鷹取川、六浦川)、野島公園周辺、海の公園、八景島の全てで確認された。河口～海水域では、アナアオサやアマモを食べる様子が頻繁に観察された。本種は近年全国的な増加が示唆されており、今後の動向にも要注意。

・**セイタカシギ**　2018-2019 で 1 羽が 1 回記録された。
・**イソシギ**　2018-2019 では 8 羽が記録されたが、その他の年では 1~3 羽。以前は海岸でのみ観察されていたが、2019 年頃から河川中流域～上流域でも見られるようになった。
・**ユリカモメ**　侍従川流域では最も数の多いカモメの仲間で、冬季に普通に見られる。当地での個体数は、数は魚の群れと金沢漁港の漁船の動向に左右される為、増減について参考になるデータは得られなかった。
・**ウミネコ**　2020-2021 以外の全ての年で記録されたが、数は少ない。2022-2023 では 10/28 に 17 羽が記録されたが、その一回だけであった。ほとんどの個体がユリカモメの群れと一緒に行動していた。
・**カモメ**　2022-2023 に成鳥 1 羽が記録された。詳細は＜2022-2023 の結果＞を参照。
・**セグロカモメ**　年によってバラつきがあったが、全ての年で記録された。後述するオオセグロカモメ同様、調査期間内での増減は無かった。
・**タイミルセグロカモメ**　2021-2022 と 2022-2023 で成鳥 1 羽ずつが記録された。本種はセグロカモメ(亜種セグロカモメ)とニシセグロカモメ(亜種ヒューグリンカモメ)の交雑個体群とされ、三浦半島でもセグロカモメやオオセグロカモメに混ざって時折観察される。
・**オオセグロカモメ**　2020-2022 の 3 季で数羽が記録された。2016-2019 には記録が無かったが、調査外では何度か観察していた。この頃は調査が月一回と少なかった事が、記録されなかった要因と考えられる。
・**ミサゴ**　年によってバラつきがあるが、侍従川流域では通年見られる。冬季は繁殖地から渡来する個体がいるようで、やや数が増える。2022-2023 ではほぼ同時に 4 個体が飛翔し、狩りの様子も観察された。この年の冬は個体数が多く、中流域や上流域でも飛翔しているのを何度か目撃した。
・**カワセミ**　海水域～上流域にかけて少数が記録された。2021-2022 と 2022-2023 では記録されなかったが、上流域～下流域に少数が生息する。2000 年代はかなり頻繁に見られた為、侍従川流域では近年減少傾向にあると思われる。
・**イソヒヨドリ**　すべての年で記録された。海水域よりも、下流域や中流域で多く記録された。近年街中への進出と共に数を増やしているが、本調査では増減は見られなかった。
・**キセキレイ**　2017 年 12 月の初認以来、冬季に中流域～上流域で極少数が見られるようになった。
・**ハクセキレイ**　全ての年で記録された。侍従川流域で繁殖しており、通年安定した数が見られる。

種数	分類(目)	分類(科)	分類(属)	分類(種)	分類(亜種)	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	上流域	中流域	下流~河口域
1	カモ目	カモ科	マガモ属	ヨシガモ				○							
2				ヒドリガモ		○	○	○	○	○	○	○		○	○
3				マガモ	マガモ						○		○		
4				カルガモ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5				ハシビロガモ								○			
6				オナガガモ		○	○	○	○	○	○	○			○
7			スズガモ属	ホシハジロ		○	○	○	○	○	○	○			○
8				キンクロハジロ		○	○	○	○	○	○	○			
9				スズガモ	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○			○
10			シノリガモ属	シノリガモ								○			
11			ビロードキンクロ属	ビロードキンクロ	ビロードキンクロ				○						
12				クロガモ					○						
13			ホオジロガモ属	ホオジロガモ	ホオジロガモ						○	○			
14			ウミアイサ属	ウミアイサ		○	○			○	○	○			
15	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ属	カイツブリ	カイツブリ				○	○	○	○			○
16			カンムリカイツブリ属	アカエリカイツブリ	アカエリカイツブリ						○	○			
17				カンムリカイツブリ	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○			○
18				ハジロカイツブリ	ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○			
19	カツオドリ目	ウ科	ウ属	ヒメウ	ヒメウ	○									
20				カワウ	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21				ウミウ			○				○	○			
22	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ属	ゴイサギ	ゴイサギ		○	○	○					○	
23			アオサギ属	アオサギ	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
24				ダイサギ	チュウダイサギ						○	○			
25			コサギ属	コサギ	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	ツル目	クイナ科	オオバン属	オオバン	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	チドリ目	セイタカシギ科	セイタカシギ属	セイタカシギ	セイタカシギ			○							
28		シギ科	イソシギ属	イソシギ		○	○	○	○		○	○		○	○
29		カモメ科	カモメ属	ユリカモメ		○	○	○	○	○	○	○			○
30				ウミネコ		○	○	○	○	○	○	○			
31				カモメ	カモメ							○			
32				セグロカモメ	セグロカモメ	○	○	○	○		○	○			
33					※タイミルセグロカモメ						○	○			
34				オオセグロカモメ						○	○	○			
35	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ属	ミサゴ	ミサゴ		○	○			○	○		○	○
36	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ属	カワセミ	カワセミ	○	○		○	○	○		○	○	○
37	スズメ目	ヒタキ科	イソヒヨドリ属	イソヒヨドリ	イソヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38		セキレイ科	セキレイ属	キセキレイ	キセキレイ		○	○			○	○	○	○	
39				ハクセキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

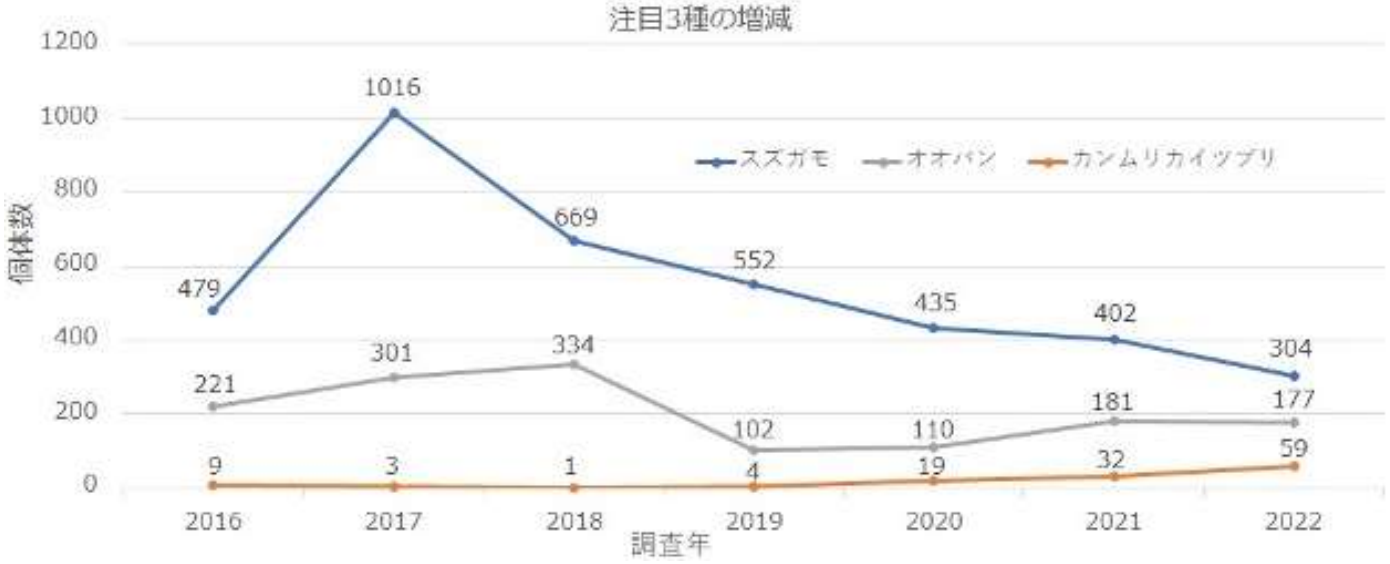
記録された年と地点を丸印で示した。

上流域＝金之橋～第二山王橋、中流域＝第二山王橋～六浦二号橋

下流～河口域＝六浦二号橋～平潟橋、海水域＝平潟湾、野島公園周辺

※本調査以外でも、生き物トピックス(だぼはぜ通信)に掲載した観察記録も対象とした。

<注目３種の増減>



・スズガモは 2018 年に急激な減少が見られ、その後も減少が続いている。

・オオバンは調査開始以前に急激な増加があったが、現在は安定したと思われる。

・カンムリカイツブリは 2019 年から徐々に増加し、現在も増加が続いている。

野島海岸に漂着した鳥類の羽根

【調査日程】12/19、12/24、1/8、1/20、2/2、2/5、2/14、2/20　計８回

【調査地点】野島海岸（図１）

【調査目的】野島海岸周辺に生息する鳥類層の把握

【採集・同定】深沢大地、小野間柊太

図１

本調査は学生部水鳥調査と並行して行った。回収された羽根には、飼い鳥や装飾品由来と思われる物は無く、周辺に生息するものが漂着したと考えられる。図１の浜を歩いて漂着した羽根を採集し、洗浄、乾燥後同定作業を行った。鳥類の羽根は全て対象としたが、破損や劣化の著しいものは除外した。

・採集された羽根のリスト

	分類(目)	分類(科)	分類(属)	分類(種)	初列風切	次列風切	三列風切	小雨羽	初列雨覆	雨覆	下面覆	肩羽	尾羽	その他	合計
1	カモ目	カモ科	マガモ属	ヒドリガモ			1								1
2				カルガモ		1	1						1		3
3			スズガモ属	ホシハジロ	2	1							1	1	5
4				スズガモ	3	4			1					11	19
5				カモ類	2		1				1				4
6	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ属	カンムリカイツブリ	2	5									7
7	ハト目	ハト科	キジバト属	キジバト	6	2									8
8			カワラバト属	カワラバト	6	4			1	4			6		21
9	カツオドリ目	ウ科	ウ属	ヒメウ	2	3		1	1	3			3		13
10				ウ類(カワウ・ウミウ)	20	19	4	8		7	1	8	10		77
11	ペリカン目	サギ科	アオサギ属	アオサギ		1						1			2
12			コサギ属	コサギ								1			1
13	ツル目	クイナ科	オオバン属	オオバン	2	3									5
14	チドリ目	ミヤコドリ科	ミヤコドリ属	ミヤコドリ	1										1
15		カモメ科	カモメ属	ユリカモメ	1				1						2
16				ウミネコ	1	12	5		1				5		24
17				カモメ		1									1
18				シロカモメ					1						1
19				セグロカモメ	12			2							14
20				オオセグロカモメ	5				2				1		8
21				カモメ類	1	28	6			10	20	9			74
22	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ属	ミサゴ		1									1
23		タカ科	トビ属	トビ		1			2	1					4
				合計	66	86	18	11	10	25	22	19	27	12	296

羽根の合計枚数…296 枚　見つかった種…23 種

・カワウとウミウは識別が困難だった為、「ウ類」としてまとめた。

・その他種類が分からなかったものは「カモ類」「カモメ類」としてまとめた。

・**ミヤコドリ**　12 月 24 日に初列風切羽１枚が見つかった。学生部の調査では初記録。本種は大型のチドリの仲間で、日本には冬鳥として渡来する。二枚貝を主食とするため、干潮時に野島海岸を利用していた可能性が考えられる。野島周辺では 2000 年代に２年連続で平潟湾干潟に渡来した記録がある(神奈川県鳥類目録Ⅵ)。

・**シロカモメ**　１月 26 日に初列雨覆１枚が見つかった。こちらも学生部の調査では初記録。神奈川県では稀にセグロカモメやオオセグロカモメの群れに混ざっているのが観察される。

・**ヒメウ**　野島では稀な冬鳥で、学生部の調査では 2016-2017 に記録があるのみ。今回の調査では風切羽や尾羽等合計 13 枚が採集された為、周辺の海岸を複数が利用していた可能性が考えられる。

事 務 局 だ よ り

◆１月～３月の活動予定

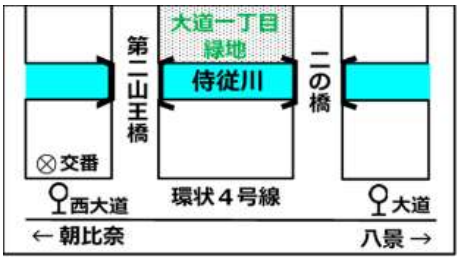
☆定例クリーンアップ　４／２３（日）、５／２８（日）、６／２５（日）

１０時～１１時 大道一丁目緑地（旧称ちとせ園）集合

持ち物：川に入れる格好、タオル、軍手(必要な人)、

網(使いたい人…貸出あり)、着替え(心配な人)

※川の上からの参加でも構いません　※雨天中止



☆定例調査（中流域調査）定例クリーンアップと同時開催

なお、上流域や下流域の調査は不定期にて実施予定です！ 詳細は、メーリングリスト、LINEグループでお知らせします。

☆４月１日（土）春の野草摘みを楽しもう　要申込み(材料準備の為)

【集合】大道一丁目緑地（ちとせ園）９：３０　【解散】大道一丁目緑地１４時３０分頃

【申込み】緊急連絡先（雨天中止連絡アドレス）を記入の上、**info★jijyukai.sakura.ne.jp**（★を@に置き換えてください）に、**3月３０日（木）まで**に担当の寺尾までご連絡ください。　※雨天時は４／２（日）に順延

【参加費】会員無料、非会員３００円

【活動場所】午前→朝比奈町で野草摘み　午後→大道一丁目緑地（ちとせ園）に戻る途中で料理試食

【持ち物】参加費（非会員）、山歩き出来る格好、摘んだ野草を入れる袋（レジ袋など）、タオル、軍手、レジャーシート（必要な人）、長靴（持って来れる人）、お昼ご飯（買い弁可）、箸、器、マスク、マスク予備、除菌対策、その他

※新型コロナウイルスの状況を考慮し、当日朝検温していただき、平熱より高い方や倦怠感など普段に比べ違和感を感じる方は参加をご遠慮ください。また、開催日前の二週間以内に①～③に該当する方はご遠慮いただく場合があります。

①濃厚接触者の判定を受けた方 ②家族に発症者のいた方 ③職場に発症者がいた方

☆会員の集い（総会・ホタル観察会）６月３日（土）に開催予定。　詳細が決まり次第、はがき、メーリングリスト、LINEグループでお知らせします。

寄付金について：2022 年度下期に一般財団法人伊丹エール財団より５万円の寄附金をいただきました。携帯型エアーポンプ、魚採り用たも網、土嚢袋など我々の活動に必要な備品に活用しています。感謝を忘れずに大切に使いましょう。

≪編集後記≫ 前号に引き続き、ふるさと侍従川に親しむ会創立３０周年特別企画第２弾として元顧問の廣瀬一雄さん自筆の「昭和３年当時の大道の風景」を掲載させていただきました(６ページ)。当時の大道は田んぼに囲まれていたことが良くわかります。(ＭＫ)